



堀船中だより

令和6年1月 第10号
校長 阿久津 光生
〒114-0002
東京都北区王子5-2-8
Tel 03-3911-8817

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

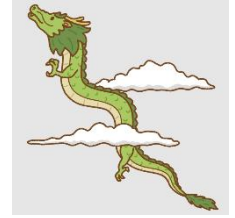
教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

《あけましておめでとうございます》

あけましておめでとうございます。昨年中は、地域・保護者の皆様には、多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本年も、教職員一同力を合わせて、子どもたちのため、保護者・地域のみなさまのために全力で頑張ってお参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



《令和6年能登半島地震の犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます》

新年の慶びを祝っていた元日の午後、突如として石川県能登地方を震度7の揺れが襲い、その後津波警報が日本海側全域に発出される等、被災地は甚大な被害に見舞われました。令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、未だ安否確認ができない方々、被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。報道により大変な被害のほどが明らかになっていく中、困難な状況にある方々の生活を大変憂慮しております。

被災された方々の安全と、被災地の一日も早い復旧をお祈りいたします。

《平塚神社落ち葉清掃ボランティア 105名の生徒の皆さん、本当にありがとうございました》

12月23日(土)、平塚神社(JR上中里駅付近蟬坂上)にて、在校生の過半数を超える105名の生徒のみなさんが落ち葉清掃ボランティアを行ってくれました。生徒会の自治活動として、生徒会役員が地域ボランティアの呼びかけをしてくれました。それに応えて多くの生徒のみなさんが快く参加してくれることになり、大変ありがたく思います。学校が桜田改築ステーションに移っても、地域のために貢献しようとするその心意気が本当に立派だと感じました。

子どもたちが地域で活躍できる機会を提供して下さった、昭和町自治会会長松本晴光様をはじめ、地域の皆さまに改めて感謝申し上げます。



《祝 3年生 上村さん 全国書画展覧 筆都大賞受賞》



3年生の上村さんが、第91回全国書画展覧会書の部において、筆都大賞という大変素晴らしい賞を受賞しました。おめでとうございます。

《祝 中学生の「税についての作文」の入賞》

全国納税貯蓄組合及び国税庁が主催する中学生の税についての作文において、
2年生 高橋ことのさん 優秀賞
2年生 小林紗和さん 佳作
それぞれ受賞しました。おめでとうございます！



《祝 村田さん、二宮さんが MVP 賞を受賞しました》



12月6日(木)、第42回北区立特別支援学級7校合同スポーツ大会が滝野川体育館にて開催され、3組のみなさんが大活躍しました。その中で、村田さん、二宮さんが MVP 賞を受賞しました。おめでとうございます。

《祝 第13回 北区バスケットボール ジュニアカップ大会優勝》

12月17日(日)に赤羽体育館で開催された第13回北区バスケットボールジュニアカップ大会のA会場で、男子バスケットボール部が優勝しました。みなさんおめでとうございます！

男子優秀選手賞 1年 青木さん
女子優秀選手賞 1年 飯川さん



《祝 良いお口の表彰 おめでとうございます》



北区長・歯科医師会より、歯と口の健康への努力をした代表として表彰されました。おめでとうございます。

1-1 近藤さん・溝口さん 1-2 小杉さん・村田さん
2-1 堀江さん 2-2 小川(悠)さん・栗原さん
3-1 前川さん 3-2 中野さん・柴田さん

《祝 3年生大島さんが、東京都中学校英語学芸大会に北区の代表として出場しました。おめでとうございます》

12月26日(火)、たましん RISURU ホール(立川市民会館)大ホールで開催された令和5年度第76回東京都英語学芸大会(東京都中学校英語教育研究会主催)SPEAKINGの部に、北区の連合学芸会英語スピーチの部門で見事に第1位となった3年生の大島さんが、北区の代表として出場しました。

さすが東京都の各地区の代表が集まる大会だけあって、そのレベルは相当に高いものでした。しかしそのような中でも、大島さんは堂々と舞台上上がると、小気味よいジェスチャーを織り交ぜながら、まるでネイティブのような流暢なスピーキングを披露していました。本当に素晴らしかったです。大島さんのこれまでの努力に、改めて感心いたしました。



～津田梅子の生き方（8）～伊藤博文との出会い～

帰国して1年が過ぎても未だ定まらない生活に悩んでいた梅子に、一つの転機が訪れます。そのきっかけとなったのは、1883(明治16)年11月3日、天長節(明治天皇の誕生日)に井上外務卿の公邸で催された夜会でした。梅子は国費留学生としてその場に招かれていました。その夜会で梅子は、12年前の岩倉使節団で同じ船に乗っていた伊藤博文と再会します。伊藤は、岩倉具視特命全権大使の下に4人いた副使の1人でした。夜会では、伊藤の方から「私のことを覚えておられますか?」と梅子に尋ねたようです。話すうちに、伊藤は梅子が定職についていないことを知りました。この出会いがきっかけとなって、伊藤は自らの家族とともに住んでいた公邸に梅子をゲストとして迎え入れることと、自身の妻の通訳や娘の英語の指導を梅子に依頼することを思いつき、梅子の父・仙に連絡したのです。仕事もなく、退屈で気の晴れない毎日を過ごしていた梅子は、この申し出をすぐに引き受けました。

そもそも、梅子と伊藤が再会した頃の明治政府には、江戸時代末期に交わした不平等条約の改正という悲願がありました。対等な条約を結び直す価値がある文明国であることを示すために、西洋風の近代化を図っていくことで、様々なものが姿を変えていく時代でした。そんな時代のうねりの中で、日本の文明の高さを証明するべく、西洋の要人と社交する建物として、1883(明治16)年11月28日、鹿鳴館は開館しました。開館直後の12月には、大山巖と捨松夫妻の盛大な結婚披露宴も行われています。鹿鳴館では連日舞踏会が繰り広げられ、多くの議論を巻き起こしながらも、一時代を担いました。そのため、この1883(明治16)年から4年あまりの時期は、「鹿鳴館時代」と呼ばれています。そんな時代背景の中で、洋風に身を包んだ捨松は大山夫人として活躍し、「鹿鳴館の華」と賞賛されました。一方、エスコート役が父・仙であった梅子は、このような場にはあまりなじめなかったようです。

さて、伊藤家で住み込みの家庭教師を務めることが決まった梅子でしたが、伊藤は梅子を「使用人」としてではなく、ゲストとして迎えた点が重要でした。伊藤は、梅子が自らの妻子に教えるだけでなく、梅子自身が多くを学ぶ機会にして欲しいと願っていたのです。伊藤は後に初代総理大臣にもなった人物ですから、当然そこでは、梅子が普段出会うことができないような高い階層の人々の往来や、外国人への対応の機会も多くありました。すっかり「アメリカ人」になっていた梅子が、日本語や日本の礼儀を修得する良い場になるだろう、とも伊藤は考えていたようです。梅子が伊藤家に滞在していたのは翌1884(明治17)年6月までで、およそ半年ほどの短い時間でした。しかし梅子にとって伊藤家での6ヶ月は、忙しかったけれど興味深い事柄にあふれた刺激的な体験でした。



伊藤博文

1883(明治16)年5月ロシア
皇帝即位祝典参列の直前

【提供】山口県光市伊藤公資料館



鹿鳴館時代の梅子

【提供】津田塾大学津田梅子資料室

また、この頃梅子は伊藤を介して重要な人物と出会います。歌人で教育者である下田歌子です。下田歌子は、17歳で宮中に召し出されると、7年余り女官として宮中に奉仕する生活を送った後、1879(明治12)年に退官し、下田猛雄と結婚して家庭に入りました。ところが、結婚するとまもなく夫の猛雄が発病し、歌子は新婚早々から丸4年間、夫の看病に明け暮れる生活を送らなければなりません。当時政府の高官であった伊藤は、宮中を出入りする間に自然と才女・下田歌子のことを知るようになっていました。伊藤は「歌子ほどの女性をこのまま狭い家庭に埋めておくのはもったいない」と考えて、歌子に女子のための塾を開くように話を持ちかけたのでした。歌子もその期待に報いるため、女子のための塾を開く決意を決め、1882(明治15)年に自ら麹町一番町の屋敷に開いたのが、「桃夭女塾」です。梅子は伊藤の取り計らいで、その歌子に英語を教えるとともに、反対に歌子から国語・習字などを習ったのです。さらには歌子が主宰する桃夭女塾で教える仕事も与えられました。しかしこの仕事はフルタイムの仕事とまでは言えず、梅子は官費留学生であった自分を政府が登用する日を待っていました。

帰国からほぼ3年が経とうとしていた1885(明治18)年9月に、梅子は、華族女学校に教授補として採用されました。ようやく専任のフルタイムの仕事に就くことができたのです。分かりやすく現代の言葉で言えば、正規雇用されたこととなります。華族女学校は、当時、宮内省所管の官立、つまり国立の学校でした。実は伊藤が準備委員会を立ち上げ、中心となって創立したのがこの華族女学校だったのです。この華族女学校の設立にあたり、捨松も伊藤に招かれて準備委員に加わっていました。捨松や梅子にとって、華族女学校での女子教育の実践は、抱いていた夢がいよいよ実現する瞬間のように思えました。